

ほほえんで北播磨



ごあいさつ

副院長兼麻酔科部長
武士 昌裕

令和7年5月 第43号

今年の冬は例年に比べ寒さが厳しく、日本海側では雪が多く大変だったことが思い出されます。また、インフルエンザが猛威をふるいました。

さて今回は、救急救命士の気管挿管実習についてお話しします。救急救命士は、傷病者のもとに救急車で駆けつけ、医療行為を施しながら病院まで搬送する業務を担っています。病院に着いてから治療を始めていては間に合わない患者さんに対し、救命士による点滴確保・電気ショック・心臓マッサージ・気管挿管などの医療行為が認められており、それにより多くの生命が救われてきました。これらの中で最も修練を要するのは「気管挿管」という手技で、口からのどの奥の気管まで、太さおよそ1cmの人工呼吸チューブを挿入することを指します。「救急救命士」は一定の知識と技術を習得した者に与えられる国家資格ですが、彼らにとってもう一段上の技術習得が気管挿管であり、人形相手だけでは不十分で、どうしても生身の人間を対象に実地訓練を積み重ねる必要があります。

ところで気管挿管は、手術室で全身麻酔下の手術を受けられる患者さんに対して麻酔科医師が毎日実施しています。

そこで、手術室という整った環境のもとで、気管挿管実習に承諾をいただいた患者さんに対して、救急救命士の気管挿管実習が行われており、当医療センターでも小野・三木・北播磨消防の実習生

を受け入れています。もちろん、気管挿管実習に際しては当医療センターの麻酔科医師が付き添って実習生の指導に当たり、麻酔科医師が行うのと同等の安全性を十分に確保しながら行います。1人の実習生が30例の気管挿管を経験して初めていわゆる免許皆伝となり、救急現場で気管挿管を実施する資格が得られます。

さて、全身麻酔下の手術が予定されている患者さんには、あらかじめ「全身麻酔で手術を受けられる患者様へのお願い」というアンケートにご記入いただき、術前入院の際に病棟で回収いたします。（呼吸器外科で特殊なチューブを使用するなど対象外もあるため、全ての患者さんにお配りしているわけではありません。）ご協力の意志が確認された患者さんには、麻酔科術前診察の際に今一度ご意志を確かめさせていただいてから実習の準備・手配に入ります。

このような形で大変多くの方々にご協力をいただき、三木市民病院の時代から20年以上にわたって連綿と、年間3～4名の「気管挿管の資格を持つ救急救命士」を輩出して参りました。

全身麻酔で手術を受けられる患者さんにおかれましては、手術という一大事でご心配な折に大変恐縮ではありますが、さらなる地域の救命率向上のため、救急救命士の気管挿管実習にご理解・ご協力をどうかよろしくお願い致します。

ごあいさつ	1
ドクターのリレー講座	2
健康管理センター便り	5
新任医師の紹介	6
大きなな～れ	11
リハビリ通信、編集後記	12



「高齢化社会における貧血」

～心配しなくてもよい貧血と治療すべき貧血～



血液・腫瘍内科 部長 杉本 健

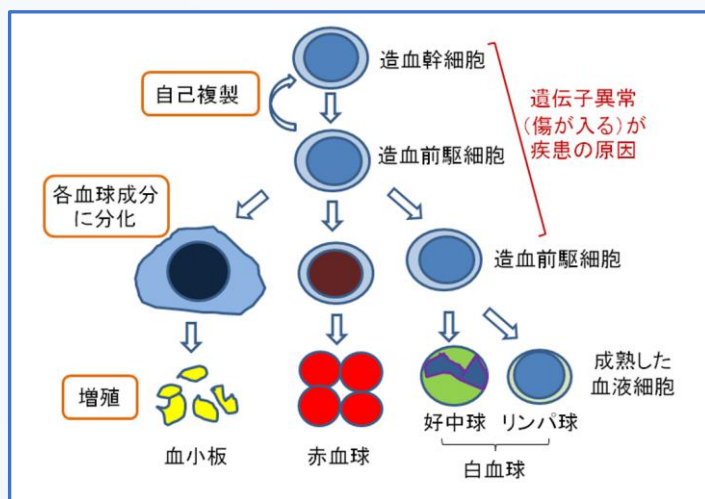
①貧血について

令和7年の日本の人口は約1億2380万人で平均年齢は49歳台となっているようです。北播磨圏域（5市1町）に限ってみますと65歳以上の方の人口割合は約34%です。年齢が進むと自然と慢性疾患に罹患する数が増えます。この複数の疾患を有する状態は最近では「多疾患併存 (multi-morbidity)」と呼ばれます。具体的には1名の方が骨粗鬆症と糖尿病と呼吸器疾患を持つなどです。中には4つ5つの疾患がある方も居られますが、それぞれの疾患をコントロールして長寿社会を生き生きと過ごしたいものです。このように高齢化社会では多疾患併存状態の方を見かけますが、そのような方が血液疾患を患って当医療センターに来院される場合があります。

赤血球の不足状態は貧血と呼ばれます。貧血では鉄分やビタミン不足、食事を十分にとっていないことで起こる造血成分不足の貧血があります。また出血を知らない間に起こしている場合もあり、消化管（胃や大腸など）からの出血が原因の場合もあります。その他血液成分が壊れやすい（溶血など）場合もあります。一方で、中高年の代表的な貧血疾患の中に、骨髄異形成腫瘍（骨髄異形成症候群 MDS）という疾患（病気）があります。

今回はこの疾患について述べたいと思います。これは一昔前では悪性貧血などと呼ばれました。血液細胞の産生は通常では造血幹細胞（血液のタマゴの細胞）から細胞が各系統の細胞に分かれて（分化）、それぞれが育って増殖することにより、いろいろな種類の血液細胞が体の中にできると考えられています（図1）。この造血幹細胞の遺伝子などに傷が入り、そこからできた成熟の血液細胞の性質に変化が生じてしまうことで、骨髄異形成腫瘍（MDS）という疾患の状態になってしまいます。

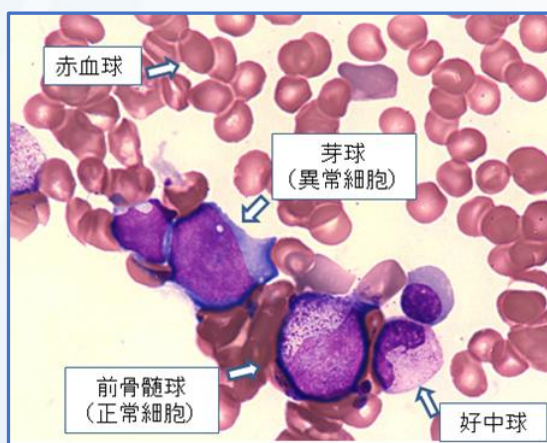
（図1）造血のシステム



貧血などの異常がある場合には、骨髄検査をして疾患の診断を行います。白血球系の細胞に異常があると予想される場合には、図2にあるように芽球（いわゆる造血前駆細胞に相当）と呼ばれる若い

細胞の割合を数えます。概して2割未満なら骨髓異形成性腫瘍、2割以上なら急性白血病に相当します。ちなみにこの骨髓検査では多様な血液疾患（多発性骨髓腫、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、など）の診断にも役立つため、疾患をはっきりさせたい場合に行います。

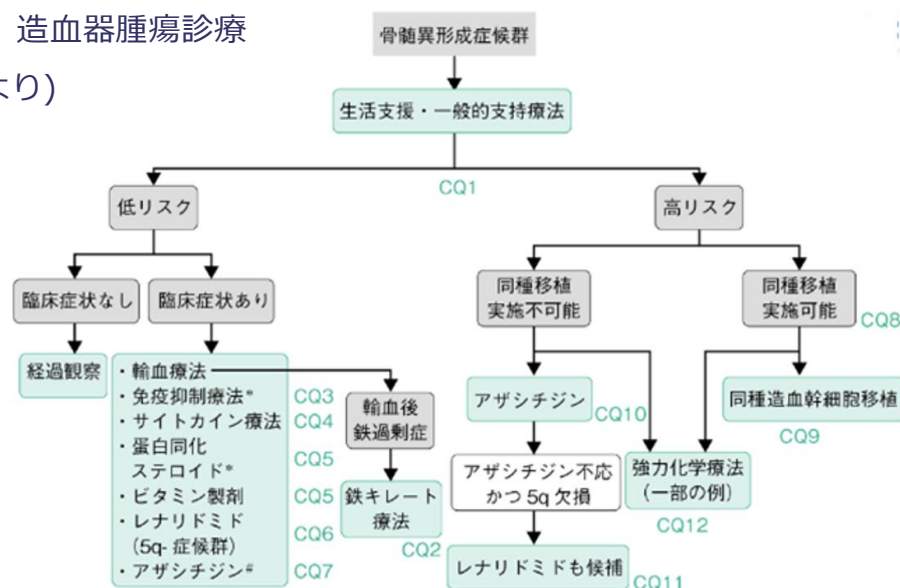
（図2）



話を戻しまして、骨髓異形成性腫瘍では貧血（赤血球数の減少）や貧血を含む血小板数や白血球数の減少が見られます。貧血は顔色を含む皮膚色が白っぽくなり、ふらついたりする症状がみられます。骨髓異形成性腫瘍からの貧血では鉄剤やビタ

ミン製剤、葉酸などを補充しても改善しないのが一般的です。赤血球、血小板、白血球の3系統の血球数がすべて低下する、汎血球減少という状態をとる場合もあります。治療ではリスク別に治療選択を行うことになりますが、低リスク群ではエリスロポエチン製剤（造血因子製剤）やシクロスポリン（免疫抑制剤）などが、高リスク群では若年者に対しては同種造血幹細胞移植療法（当医療センターでは行っておらず他院へ紹介となります）や薬物療法を行います。参考までに現在のガイドラインを図に示します。（図3）当医療センターでの骨髓異形成性腫瘍の治療では年齢層的に移植非適応の場合が多く、薬物療法、輸血療法に加え、感染症対策などの支持療法を含めた対応が必要です。このように貧血は血液疾患でよくある病態ですが、心配をあまりしなくてもよい貧血もあれば構えて治療に専念する貧血もあります。ちょっと困ったなということがありましたら当科にご相談ください。

（図3 MDSの治療. 造血器腫瘍診療ガイドライン2023より）

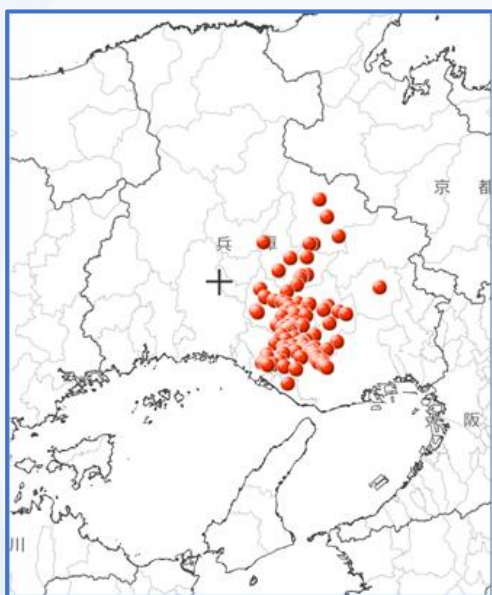


*国内未承認
#他治療抵抗性の赤血球減少例など

②血液疾患の治療を進めるには…

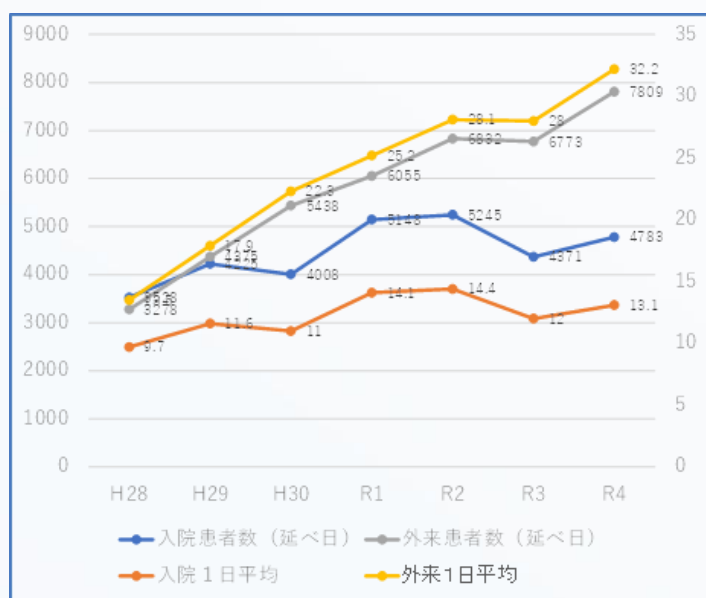
先ほどの話の続きで骨髄異形成腫瘍を例にあげます。当医療センターでのこの疾患の診断治療例を開院からの10年余りの患者さんを調査しますと、100名余りおられます。地域的には北播磨医療圏域を中心にその近隣（丹波・東播磨）からも来院されています。

（図4）

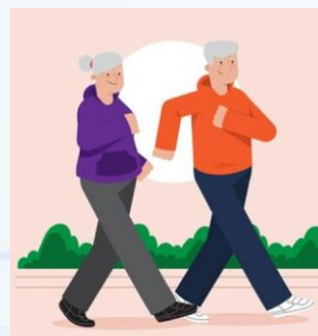


このような医療圏域から入院や通院がされていますが、病院までの距離やアクセスを考えますと治療遂行には工夫が必要です。つまり長期間にわたって貧血が進行しないように治療を行うためには定期的な（リズムの良い）通院が不可欠でしょう。一昔前のような入院中心の治療では足腰が弱って活動性が落ちてしまうことが懸念されます。多疾患併存の状態のコントロールも重要な事項です。それらを踏まえて外来での治療について取り組まれてきました。話が広がってしまい恐縮ですが、一般的ながん化学療法の患者さんの診療は現在外来で行われている

場合が多いです。当科で扱った血液がん、固形がんで化学療法を行った方の入院・外来別の年次推移を図5に示します。図のように外来での治療の方が増えています。この中には多疾患併存の方も居られます。（図5）



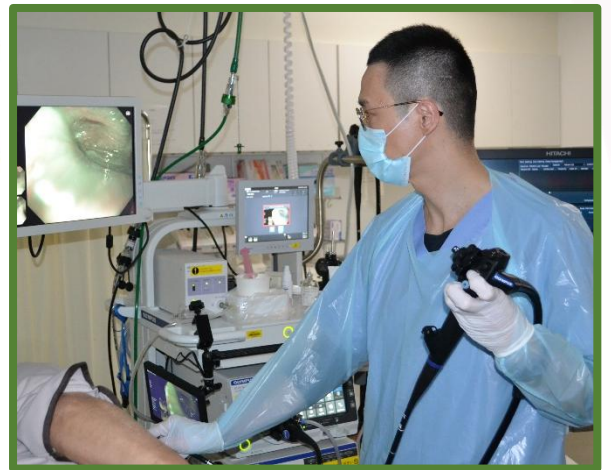
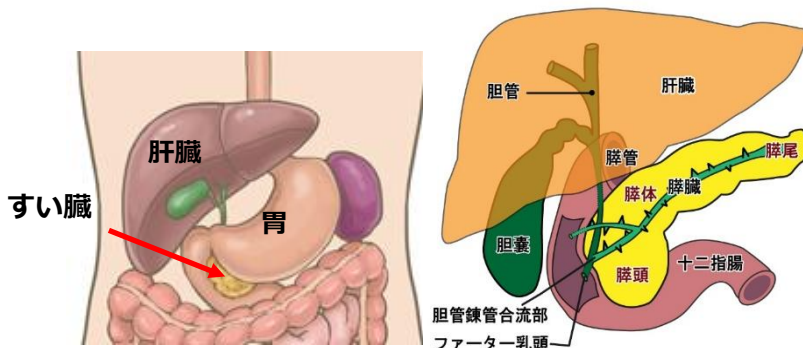
私見も含みますが、足腰が丈夫で日常生活を自力で過ごせることが血液疾患の治療でも大切になってきます。意外かも知れませんが、少しでも腰や下肢を中心にリハビリをしながら活動性を保ちつつ過ごしていただくことが、もしもの血液疾患の治療の際にも良い方向に向くのではないかと思います。また多疾患併存の状態もコントロールしやすいと思われます。今回は血液疾患診療に向き合って思うことを書きました。



「日帰りすい臓コース」のご案内

今号では当医療センターの「日帰りすい臓コース」をご案内します。

すい臓は、胃の後ろにある長さ20センチほどの細長い形をした臓器です。すい臓全体には、膵管という管が通っていて、すい臓がんの多くは、この膵管にできます。すい臓は胃の後ろ側にあるので腹部の表面からあてるエコーでは見えづらく、ガスがたまっていたり、皮下脂肪がたくさんあると十分に確認することができません。当医療センターでは、すい臓がんを早期に発見するために、「日帰りすい臓コース」を実施しています。



胃の後ろに少し
見えておるのが
すい臓じゃよ！

EUS検査では、胃の中か
ら超音波をあてることで
しっかりすい臓がみえる
のじゃ！

人間ドック「日帰りすい臓コース」
で健診者さんにEUS施行中。



当医療センターの日帰りすい臓コースの内容

(基本の日帰り人間ドックコースの内容にプラスして下記の検査があります。)

超音波内視鏡 (EUS) : 内視鏡 (胃カメラ) の先端に高解像度の超音波が備わっているため、胃や十二指腸の中からすい臓や胆のうを詳細に確認できます。熟達したスキルを持つ医師が検査します。

MRCP : MRIを使って膵管や胆管を確認します。磁気を使つての検査です

すい臓に特化した血液・尿検査 : リパーゼ・CEA・CA19-9・エラスターゼ1・トリプシン・
膵ホスホリパーゼ・尿中アミラーゼ

早期のすい臓がんは無症状のことがほとんどで、症状が出てからの早期診断は非常に困難です。

当医療センターのようなすい臓ドックを実施している施設は県内でもごくわずか。ぜひ当医療センターの「日帰りすい臓コース」をご活用ください。

お問い合わせは 人間ドック専用ダイヤル 0794-88-8872 (平日14時~16時) まで

～新任医師の紹介～

令和7年4月1日に着任された新任医師を紹介します。

外科、消化器外科、乳腺外科
がん総合診療センター副センター長
部長・診療科長

スズキ サトシ
鈴木 知志

(1991年卒業)

【資格等】

日本外科学会指導医

日本消化器外科学会指導医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本内視鏡外科学会技術認定（消化器・一般外科）

日本がん治療治療認定医機構がん治療認定医

日本食道学会食道科認定医

日本胃癌学会代議員（2022年度～2026年度）

Certificate of Off-Site Training As a Console Surgeon

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

臨床研修指導医養成講習会修了

呼吸器外科
主任医長・診療科長

キムラ ケンジ
木村 賢司

(2011年卒業)

【資格等】

日本外科学会専門医

日本胸部外科学会呼吸器外科専門医

日本呼吸器外科学会胸腔鏡安全技術認定制度認定医

肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医 指導責任者

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

臨床研修指導医養成講習会修了

消化器内科
主任医長

タナカ シュンタ
田中 俊多

(2011年卒業)

【資格等】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

外科、消化器外科、乳腺外科
医長

オカゾエ ユウキ
岡副 佑城

(2017年卒業)

【資格等】

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会専門医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本肝臓学会専門医

日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

外科、消化器外科、乳腺外科
医長

フクダ チヒロ
福田 千紘

(2018年卒業)

【資格等】

日本外科学会専門医

マンモグラフィ読影講習会評価（A S）

乳房超音波医師講習会試験結果（A）

日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 J O H B O C

e-learningセミナー受講

日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ読影

講習会受講

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

呼吸器外科
医長

ハガ ナナセ
芳賀 ななせ

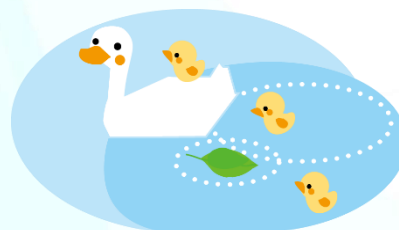
(2015年卒業)

【資格等】

日本胸部外科学会呼吸器外科専門医

日本外科学会専門医

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



**耳鼻咽喉・頭頸部外科
医長**

カミコンヤ タツヒコ
上紺屋 達彦

【資格等】 (2017年卒業)

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会補聴器相談医

日本嚥下医学会嚥下機能評価研修会修了

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

日本救急医学会 I C L S ・ BLSコース受講

**糖尿病・内分泌内科
医長**

フジワラ エリ
藤原 えり
(2012年卒業)

**糖尿病・内分泌内科
医長**

スズキ マサキ
鈴木 正暉
(2015年卒業)

【資格等】

日本糖尿病学会専門医

日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医

日本内科学会認定内科医

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

**脳神経内科
医長**

カタナザカ キミタカ
刀坂 公崇

【資格等】 (2015年卒業)

日本神経学会認定神経内科専門医

日本内科学会認定内科医

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

**整形外科
医長**

フルカワ タカヒロ
古川 隆浩
(2013年卒業)

【資格等】

日本整形外科学会専門医

**腎臓内科
医員**

イズミ コウスケ
泉 昂佑

【資格等】 (2020年卒業)

中心静脈カテーテル挿入（CVC）認定医

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

JMECC（日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会）修了

**小児科
医員**

マツウラ ハルカ
松浦 春香
(2020年卒業)

【資格等】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

**整形外科
医員**

ゴトウ サヤ
後藤 紗矢
(2020年卒業)

【資格等】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

**糖尿病・内分泌内科
医員**

ナガノ コウヘイ
永野 浩平
(2020年卒業)

【資格等】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

JMECC（日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会）修了

**脳神経内科
医員**

マツノ ヤスユキ
松野 泰幸
(2019年卒業)

【資格等】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

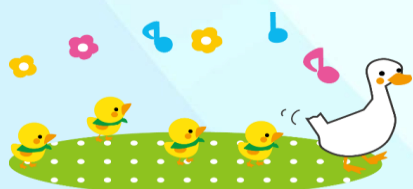
**泌尿器科
医員**

トダ イツロウ
戸田 逸朗
(2020年卒業)

【資格等】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

泌尿器科daVinci手術認定



外科、消化器外科、乳腺外科

専攻医

ハットリ ヒロユキ

服部 寛之

【資格等】

(2020年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

血液・腫瘍内科

専攻医

カネモリ ゲン

兼森 玄

【資格等】

(2022年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

血液・腫瘍内科

専攻医

モリ ユウジ

森 佑史

(2022年卒業)

循環器内科

専攻医

ハセガワ カズヤ

長谷川 和哉

(2022年卒業)

循環器内科

専攻医

タカハシ タクヤ

高橋 拓哉

(2022年卒業)

循環器内科

専攻医

ウカワ リクヤ

鵜川 陸哉

【資格等】

(2022年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

整形外科

専攻医

イシダ ユウヤ

石田 雄也

【資格等】

(2021年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

整形外科

専攻医

ケナイ ミツユキ

祁内 允行

【資格等】

(2022年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

整形外科

専攻医

アサ ハヤト

麻 隼士

【資格等】

(2023年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

糖尿病・内分泌内科

専攻医

モリカワ サキ

森川 咲希

【資格等】

(2023年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

脳神経外科

専攻医

カネシロ トシユキ

金城 敏之

【資格等】

(2023年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

泌尿器科

専攻医

アオモリ ダイキ

青森 大輝

【資格等】

(2022年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

臨床研修センター(内科専攻医)

専攻医(基幹)脳神経内科

ツル アサキ
都留 朝希

【資格等】

(2021年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

臨床研修センター(内科専攻医)

専攻医(基幹)循環器内科

イヌイ ユウスケ
乾 悠介

【資格等】

(2023年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

日本救急医学会 I C L S コース修了

臨床研修センター(外科専攻医)

専攻医(基幹)外科

シバタ ナオト
柴田 直人

(2023年卒業)

臨床研修センター(外科専攻医)

専攻医(基幹)心臓血管外科

オオクボ チヒロ
大久保 知洋

【資格等】

(2023年卒業)

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

イノウエ コウミ
井上 香海

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

オキモト サユキ
沖本 紗雪

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

コニシ ユウカ
小西 佑佳

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

シノハラ ツカサ
篠原 吏

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

シバタ カオル
柴田 薫

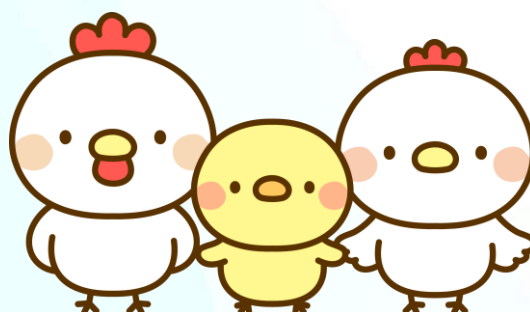
(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

タナカ ユウタ
田中 優太

(2025年卒業)



臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

タマガキ

玉垣

リョウヤ

諒也

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

マツシタ

松下

アイ

愛

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

マツダ

松田

リョウヤ

凌哉

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

ミキ

三木

タカオ

崇生

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

ミヤコ

都

ヒロヤ

大哉

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

ヨシダ

吉田

トモフミ

知史

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

オオモリ

大森

ヤストモ

康智

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

キヌガサ

衣笠

ウキョウ

右鏡

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

ヒラノ

平野

マサヤ

雅也

(2025年卒業)

臨床研修センター(初期研修医)

初期研修医

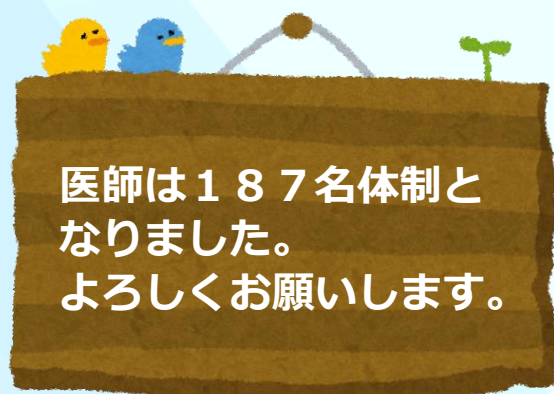
フジワラ

藤原

ツバサ

飛翔

(2025年卒業)



よろしくお願いします



大きくな～れ

4階東病棟

4階東病棟は、産婦人科を含む混合病棟です。

出産から生後すぐの育児を支援しています。

お産はママと赤ちゃんが一生懸命頑張って作り上げる奇跡の瞬間です。

“大きくな～れ”では、そんな瞬間の一部を取り上げ
みなさんに楽しんでいただけるよう発信しています。

～足形をとりました！～

出産～生後すぐの育児の支援をしています。

“大きくな～れ”では、入院中の赤ちゃんとお母さんの日常を紹介しています。



当医療センターでは、生後1日目に足形をとっています。
また、生後0日目に産声を録音し
うぶ声アルバムとして退院時にお渡ししています。



いつの日か、お子様とうぶ声アルバムを見ながら、
成長を感じていただける日を心からお祈りしています。

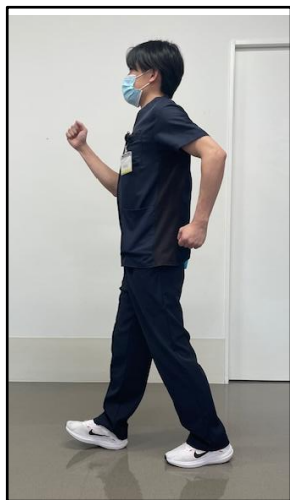


大切な瞬間に寄り添えることに感謝しながら、スタッフも日々全力でサポートを行っています。
赤ちゃんが健やかに、すくすくと育ちますようスタッフ一同願っております。

リハビリテーション通信

皆さん、ウォーキングしていますか？ウォーキングは手軽にできる運動であり、健康維持に多くの効果があります。心肺機能の向上や血流促進、筋力維持にも役立ち、認知予防やストレス解消の効果も期待できます。

OK



NG



■正しく歩くポイント■

- ・目線は前へ
- ・自然に腕を振る
- ・背筋を伸ばす
- ・かかとから着けて足の指で踏み出す

■続けるポイント■

- ・お気に入りのコースを見つける
- ・友人や家族と一緒に歩く

【編集後記】

開院して12度目の春を迎え、着任、新採用された職員と共に新年度がスタートしました。

今年度は大阪万博開催の年であり、開幕後の大きな賑わいの様子をニュースで見ると、なぜかほっとした気持ちになりました。やはり、日本での国際的な開催イベントの成功はうれしく感じますね。

当医療センターにおいては、今年度新たに認知症診療センターを設置しました。さらに充実した医療体制を整え、職員一丸となり地域医療に貢献していきたいと思ひます。

本紙では、ドクターのリレー講座や健康センター便りなど、皆様に興味を持って頂けるよう、お役に立つ情報をお届けしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

経営管理課 若尾 俊範

発行／北播磨総合医療センター 広報委員会【事務局：管理部 経営管理課】

〒675-1392 兵庫県小野市市場町926-250

☎：0794-88-8800(代表) ホームページ <http://www.kitahari-mc.jp/>